

船舶事故調査報告書

令和2年8月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|----------------------------------|--|
| 事故種類 | 衝突 |
| 発生日時 | 令和元年9月26日 14時08分ごろ |
| 発生場所 | ギリシャ共和国ピレウス港 (概位 北緯37°57.1' 東経023°34.9') |
| 事故の概要 | コンテナ船 ^{ワンブルージェイ} ONE BLUE JAYは、入航中、着岸中の油タンカー ^{ギネス} GUNECEIに衝突した。 |
| 事故調査の経過 | 令和元年10月18日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済 |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 | A コンテナ船 ONE BLUE JAY、145,251トン 143340、アオイ・シップ・ホールディング合同会社 B 油タンカー GUNECE（トルコ共和国籍）、4,425トン 9140841（IMO番号）、BEYKIM PETROLCULUK GEMI |
| 乗組員等に関する情報 | A 船長A（インド籍）、締約国資格受有者承認証 船長（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国発給） B 船長B、不詳 |
| 負傷者 | A なし B 軽傷 1人（甲板長） |
| 損傷 | A バルバスバウの損傷等 B 右舷中央部外板に損傷 |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風向 北西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏 |
| 事故の経過 | A 船は、船長Aほか22人（フィリピン共和国籍16人、インド籍6人）が乗り組み、タグボート3隻にえい航索をとり、水先人の操船により、船首を北方に向けて着岸予定の岸壁（以下「本件岸壁」という。）に入船右舷着けとする予定で本件岸壁に向けて航行していた。 A 船は、船長Aが、速力が予定よりも速いと感じたので、水先人に替わって自ら操船を行い、主機を徐々に減速とした後、全速力後進としたが、船首が右方に振れ、船首部が本件岸壁に隣接する岸壁に左舷着けのB船の右舷中央部に衝突した。 B 船は、左舷着けで着岸していたところ、A船の船首部が衝突した。 |
| 分析 | A 船は、入航中、本件岸壁に向け、B船右舷側方を通過して本件岸壁に接近する際、過大な速力を保持した状態で航行を続けたことから、全速力後進としたものの、船首が右方に振れ、着岸中のB船に衝突したものと考えられる。 B 船は、着岸中、A船と衝突したものと推定される。 |

| | |
|--------------|---|
| 原因 | 本事故は、A船が入航中、本件岸壁に向け、B船右舷側方を通過して接近する際、過大な速力を保持した状態で航行を続けたため、全速力後進としたものの、船首が右方に振れ、着岸中のB船に衝突したものと考えられる。 |
| 再発防止策 | 今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 着岸予定岸壁に接近中、隣接する岸壁に着岸中の他船がいる場合、あらかじめ他船との適切な距離を保ち、適切に減速し停止したうえで着岸すること。 |